

「知事の獣肉処理施設視察」に係る新聞記事について

農業振興課

○中日新聞（西三河版）平成23年10月5日 朝刊

知事「マタギ小屋」視察

害獣活用 ジビエ料理事業に期待

岡崎・夏山

農作物に重大な被害をもたらすシカやイノシシといった害獣を「ジビエ料理」として有効活用する取り組みが、岡崎市の山あいにある夏山地区で進められている。四日には、同地区にあるNPO法人「中部猟踊会」の処理施設を大村秀章知事が視察し、県と協力した事業が期待される。

（嶋村光希子）

夏山地区のある旧額田町では、以前から獣害に悩まされており、二〇〇五年に害獣を捕獲して農林業者の生産安定を目的に中部猟踊会を設立。今年三月には処理施設「三州マタギ小屋」を作り、日浅一理事長を中心にして捕獲から解体処理まで行っている。

小屋を訪問した大村知事は、朝方に捕獲し

日浅理事長から説明を受け、調理されたシカの肉を味わう大村秀章知事
＝岡崎市夏山町の三州マタギ小屋で



た体長一び、六〇―七頭や、各部位を冷凍した。日浅理事長が「シイの実を食べたイノシシは肉質が良くおいしい」と説明し、大村知事はイノシシの体に触れるなどした。

その後、シカのサイコロステーキなど味わい、「味にくせもなくおいしい。害獣をただ埋めるのではなく一人でも多くの方に召し上がっていただき、三河の山の名物にしたい」と県を挙げてのPRに意欲を示した。

八月十日には、三州マタギ小屋で食肉処理したイノシシやシカを使ったカレーやパスタ

のレトルト食品を、幸田町須美の「筆柿の里・幸田」で販売する。県や中部猟踊会などが連携して商品化した。

トヨタの自動車テストラクス

知事が予定地を視察

大村秀章知事が4日、三ヶ小屋里では、イノシシ河地域を訪問し、岡崎市夏料理を試食した。また、県山町にあるNPO法人中部企業庁が岡崎、豊田市にましかる地域で用地造成をし、豚蹄会のイノシシなど畜養しているトヨタ自動車のテス

トコリス予定地を視察した。

大村知事は、三州ツギギツの敷路が徐々に拡大され、同法人の目浅二理小屋で、同法人の目浅二理事長の説明を受けながら肉の解体施設を見学。イノシシやシカの焼き肉のほか、イノシシの肉の漬せご飯も試食した。

同施設は、今年3月に完成。年400頭以上を解体し、イノシシなどの肉を使った料理は「ジビエ料理」と呼ば

処理できる能力がある。日

浅理理事長は「レストランなだ。大村知事は、三州ツギギツの敷路が徐々に拡大され、同法人の目浅二理小屋で、同法人の目浅二理事長の説明を受けながら肉の解体施設を見学。イノシシやシカの焼き肉のほか、イノシシの肉の漬せご飯も試食した。

農作物に被害を与えない

れて人気を呼んでいる。日

一方、知事は、県企業庁が来年度中の工事着手を目指すテストラクス予定地の約5キロを車で縦断した。希少な鳥類や猛きん類を保護するために残す田んぼなどでは、車から降りて、担当者から説明を聞いた。